

# 麻痺のある利用者に対する心の支援 ～マッサージから得られる精神的効果～

18CC12 鈴木 香絵

## I. はじめに

介護実習Ⅲでは、脳梗塞後遺症による軽度の左手麻痺がある A 様を受け持ち利用者とし実習をさせていただいた。A 様は、左手に対してマイナスな発言が多くあり、タオルたたみや車椅子自走後に自分の右手で左手の指を引っ張る姿が見られた。そこで、少しでも気持ちが楽になってもらえるように手指マッサージを行った。手指マッサージを行う中で、受け持ち利用者の気持ちに変化がみられたため報告する。

## II. 実習先種別・実習期間

介護老人福祉施設

2019 年 6 月 24 日～7 月 23 日（うち 23 日間）

## III. 事例紹介

A 様 90 歳代 女性

### 1. 家族構成及び生活歴

夫が三年前に他界。家事は全て行っていた。

夫の他界後は、友人宅へ遊びに行ったり 80 歳で習字を習い始めたりと気楽に生活をしていた。

### 2. 入所に到った理由

自宅で会社を営んでいるため家族での面倒を見るのが難しいという理由から入所に至った。

### 3. 健康状態

主な疾患は認知症、脳梗塞後遺症による軽度の左麻痺である。

既往歴として、脳梗塞、第二腰椎圧迫骨折、骨粗鬆症がある。

### 4. 日常生活の状況

睡眠：本人から寝てばかりいると、昼か夜なのか分からなくなるという発言あり。

コミュニケーション：理解力に問題なし。

耳が少し遠いが他利用者とよくコミュニケーションをとっている。

### 5. 性格

穏やかで明るい。本人は、自分の性格を引っ込み思案だと言っている。

### 6. 1 日の過ごし方

昼食後は、居室のベッド上で休まれている。本人からは部屋で寝ていることが多いという発言あり。

## IV. 介護の実際

### 1. 課題の発見と分析

A 様が手のひらを見せながら、「脳梗塞をしてからうまく動かなくなってしまった。左右大きさも違うでしょ。」と言っていた。普段の生活でも、左手を引っ張る姿や力の入らないことを気にされる姿が見られた。そこで、手指マッサージを実施することで、左手に対しての不安軽減につなげられるのではないかと考えた。また、コミュニケーションの好きな A 様に対してマッサージを通して会話をすることで楽しみながら実施することができればと考えた。

### 2. 介護上の課題

脳梗塞の後遺症と気にされている左手のケアを行う事で A 様の精神的安定を図る必要がある。

### 3. 介護目標

長期目標：施設生活において安心した日々を送ることが出来るようにする

短期目標：A 様の左手のマッサージを行う事で精神面での不安軽減につなげることが出来る

## V. 実施及び結果

7月9日から3日間おやつ後の空いた時間に15分ほど両手の手指マッサージを実施した。ベビーオイルを塗ると「潤うね。」と言って笑顔が見られた。マッサージ中に左手で私の手を握り、「血が流れている感じがするよ。手が赤くなってホカホカしてきた」と言われた。しかし、マッサージ終了後、「あなたの手に申し訳ない。」という発言があったため、頻度を修正する必要があると考え毎日実施を2日に1回に修正をした。

7月13日、頻度を修正し実施したところ終始「気持ちがいいね、手が楽になるよ。ありがとう。」という発言があった。私の体も気にかけてくれ、肩をさすってくれることもあった。

7月15日、A様が体調不良となり居室で休まれていたため職員さんに許可を取り居室にて手指マッサージを実施した。「1人で横になっているのは寂しかったから嬉しい。」という発言があった。実施後は、「気持ちよかった。体も楽になってきたよ。」と言われ、顔色も少しずつ良くなっていた。

## VI. 考察

左手に対する不安軽減のため、手指マッサージを行うと同時に A 様から、「血が流れている感じがするよ。手が赤くなってホカホカしてきた」という発言や私の手を握ったこともあった。また、私の体を気にかける発言もあった。岡本<sup>1)</sup>は「マッサージの心地よい刺激や手が触れることで、緊張を緩和し情動に働きかけることにより、精神面にも影響を及ぼします。」と述べている。このことから、A 様に対して行った手指マッサージにより、マッサージ中に左手に対して前向きな発言を聞くことができ、私のことを気にかける発言を聞くことができた。手指マッサージを行ったことで、緊張がほぐれリラックス効果へとつなげることができたのではないかと考える。

今回実施することの出来なかったアロマセラピーについて、ギル佳津江<sup>2)</sup>は「香りと優しい手によるタッチで心にも身体にも深く働きかけるという基本的な特徴がある」と述べている。岡本<sup>3)</sup>も同様にアロマセラピーについて、「マッサージと併用し精油の作用をうまく使うと相乗効果が期待できる」と述べている。このことから、A 様の精神面でのケアに対して疲労回復作用やリラックス作用のあるアロマを使用することで、ベビーオイルからは得ることの出来なかった香りの作用などに加えて相乗効果を得ることが出来たのではないかと考える。

## VII. おわりに

今回の介護実習Ⅲ及びケーススタディを通して、麻痺のある利用者に対する心のケアとしてマッサージが有効であると学ぶ事ができた。マッサージといっても一つの方法だけではなく、様々な方法がある。今回実施することの出来なかったアロマセラピーについても理解を深めることができ、効果についても学ぶことが出来た。このことから、介護計画の展開に対して視野を広く持つことの重要性を学んだ。

## 参考・引用文献

- 1) 岡本佐智子 (2017)「根拠がわかる看護マッサージ」中央法規 p63
- 2) ギル佳津江 (2013 年)「今日からはじめるアロマセラピーマッサージ」風媒社 p72
- 3) 岡本佐智子 (2017)「根拠がわかる看護マッサージ」中央法規 p119～127

